

## 「わかるともっとおもしろい！美術のミカタ」の一考察 2

三 榊 正 典\*

(2023年12月22日 受理)

### A Study of “It’s More Interesting When You Understand! How to View Art” 2

Masanori MIMASU\*

Famous paintings where you can discover more interesting things you didn’t know existed when you change your perspective. Starting in 2020, the SNS “JA Mutual Aid Hiroshima (Hiroshima Window - Mikata of Art)” will focus on art museums and museums in Hiroshima Prefecture, focusing on the works held by each museum and the circumstances leading up to its opening, and general topics such as “5W1H”. Introducing three new points of appreciation that will help you enjoy viewing art works by changing your perspective. In this article, following on from the previous article, I have introduced some things there! know! It shows a new meaning for famous works of art.

**Keywords:** How to appreciate famous paintings 有名絵画の鑑賞方法, 3 points to appreciate 3点の鑑賞ポイント

#### はじめに

視点を変えると知らなかった面白さがまだまだみつかるとある有名絵画。2020年より SNS「JA 共済広島（ひろしまウィンドウ～美術のミカタ）」において広島県内の美術館や博物館を中心に各館が所蔵する作品や開館まで至った経緯を題材とし「5W1H」などの一般的な美術作品の視点を変えながら美術作品をみる楽しさの入り口となるであろう新しい3点の鑑賞ポイントを紹介している。本稿では前回に続き、そこで紹介したみたことある！知っている！有名美術作品の新たなミカタを示したものである。

#### 1. 尾道市立美術館美術館 2020.11.30



図1 尾道市立美術館（外観）

\* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科教授

尾道美術館は、昭和55年に市民の草の根運動からスタートして開館しました。その後、平成15年、安藤忠雄の設計による改修工事を経てリニューアル。その佇まいは、開館時の外観を残しながらも現代的なデザインを取り込み、「本物の芸術と文化を提供し、新たな感動の中で歴史を見据えながら、未来へと羽ばたく豊かな夢と明るい希望を世界へ発信して、地域社会に貢献する本格派の美術館」という新しいコンセプトが見事に表現されているのです。美術館には、小林和作を始め尾道を舞台に活躍した作家の油彩画・日本画・水彩画・写真・彫刻・工芸・書など約1,500点の作品が収蔵されています。

### 鑑賞のポイント その1

3つの日本遺産が一堂に眺望できる贅沢なスポットが！美術館内に！アル！

日本遺産は、2020東京オリンピック開催に向けて文化庁が認定したもので、日本各地の歴史的魅力や特色が文化・伝統を語るストーリーとして表されています。現在日本遺産に認定されている件数は104件。その内の3件が尾道市立美術館内にある1スポットで鑑賞できるのです。さて、どこにあるのでしょうか？探してみるのも楽しいですよ！

1スポットで鑑賞できる日本遺産の3件

- ①瀬戸内海随一の良港として繁栄した「海の川」とも言われる『尾道水道』
- ②動く総合商社とし巨万の富を生み各地に繁栄をもたらした『北前船寄港地』
- ③日本最大の海賊「村上水軍」の本拠地である『芸予諸島』



図2 尾道水道

### 鑑賞のポイント その2

何と言っても「小林和作」でしょう！

小林和作は、昭和9年に尾道に移住し、市民と身近に接しながら風光明媚な尾道の風景を愛し、終生描き続けた近世日本洋画家を代表する作家です。和作は、尾道の文化振興にも深く関わり、名誉市民にも選ばれていて今でも多くの人に慕われています。中でも「日照雨」1935は尾道に移住した翌年に描かれた作品で、その画風はゴッホを連想するような力強いタッチで尾道の対岸の向島の突如の雨の風景を描いています。尾道の風景を愛し続けた和作の作品を元に、もう一度現在の尾道の風景を見つめてみるのも鑑賞する楽しさのポイントになるのでは？！



図3 日照雨 1935



図4 「秋山 (志賀高原)」1954

また、「秋山 (志賀高原)」は長野県の志賀高原の紅葉を見事に描き出した作品です。小林和作の最も油の乗りきった制作旺盛の時期の筆致がまるでゴッホの筆致と重なるようにも感じる重厚感があります。それぞれの時代の筆致の変化を辿るのも鑑賞のポイントにもなるでしょう。

### 鑑賞のポイント その3

一生尾道で活躍した女流画家「ぎょくおんさん」ここに在り！

尾道の人たちに今でも「ぎょくおんさん」と親しみを持って呼ばれている平田玉蘊は、江戸時代後期1787年に尾道に生まれ、一生尾道で生きた女流画家です。京都で絵画を学び、伊藤若冲などの作品を手本としながら花鳥画を中心に人物画・風景画など多くの優れた作品を残しています。尾道市立美術館には「西王母図」などの掛け軸の作品が多く所蔵されていますが、尾道市内の寺社などには屏風や襖絵の大作も残されていて、残されたコレクションを探しながら尾道市内の寺社や古い町並みを探索するのも楽しみな鑑賞のポイントになるのでは？！また頼山陽との恋愛も語り継がれていて、近年再評価されつつある楽しみな作家です。

「ぎょくおんさん」「わさくさん」と、今でも尾道の人々は懐かしさと親しみと誇りをもって呼んでいます。尾道の地で成功して豊かになると二人の絵を持つことがその豊かさのシンボルとなっていたようです。それはただ単に芸術作品を所有するというものではなく、郷土に貢献してきた作家を自分と重ね、共に歩んで行きたいという郷土愛と繋がるものになったのではないのでしょうか。



図5 西王母図



図6 紅葉狩図

さて、あなたも尾道市立美術館の作品を通して尾道の歴史の新たな感動に出会ってみませんか！<sup>1)</sup>

尾道市立美術館

〒722-0032 広島県尾道市西土堂町17-19 (千光寺公園内)

<https://www.onomichi-museum.jp/>

## 2. 広島県立美術館 2021.2.26

広島市内の中心に位置する広島県立美術館は、日本画家児玉希望がアドバオザーとなり1968年9月中国地方初の公立美術館として開館しました。さらに1996年10月には名勝縮景園との景観的な融合を図り新築再開館し、現在に至っています。美術館の所蔵品は総数約5,000点、鬘光や南薫造、小林千古などの近代の日本洋画。奥田元宋、和高節二、平山郁夫をはじめとする日本画。工芸。西洋画の名品が揃っています。美術館の地下には県民ギャラリー・講堂もあり、県民の企画展やかくイベント、教育プログラムも充実しており、県民に「開かれた美術館」となっているのです。



図7 広島県立美術館外観

#### 鑑賞のポイント その1

名勝縮景園の四季の色彩と共に！美術鑑賞！

縮景園は江戸時代初頭の広島浅野藩主浅野長晟が庭園として築成したもので上田宗箇が作庭した大名庭園です。儒学者の林 羅山（らざん）の詩の序文「海山をその地に縮め風景をこの楼に聚む」から「縮景園」の名称が付いたと言われています。その庭は、季節の折々様々な花が咲き、色とりどりの色彩を感じることが出来るのです。季節ごとの花々の開花に合わせ、企画展や所蔵作品などの美術作品に逢いに来るのもいかがでしょうか？また違った作品鑑賞を楽しむことが出来るのではと思います！



図8 名勝縮景園



図9 美術館内から見た縮景園

### 鑑賞のポイント その2

世界に5体しかない伊万里焼絵馬の2体！

美術館2階には工芸作品の名品が陳列されている一室がある。そこに世界に5体しかない伊万里焼の2体「伊万里柿右衛門様式絵馬」が展示されている。伊万里焼は江戸時代中期から西洋に大量に輸出された磁器で、その華麗な色絵を施した柿右衛門様式と呼ばれる作品は西洋人を魅了させ、マイセンをはじめヨーロッパの磁器焼成に大きな影響を与えました。

2体の「伊万里柿右衛門様式絵馬」は、広島県立美術館の工芸作品を代表する作品。新築再開館当時は、大きな風船人形として美術館入口に展示されていたのは、多くの人の記憶に残っているのではないかと思います。どっしりとした安定感のある馬体、大きく見開いた目は緊張感を醸し出すと同時にユーモアも感じる事が出来ます。さらに華麗な文様は作品全体の美しさを際立たせています。フランスからの里帰り作品の貴重な2点。ゆっくりじっくり鑑賞してみてください！



図10 伊万里柿右衛門様式絵馬

鑑賞のポイント その3

日本の印象派 呉市安浦町出身の画家、南薫造の1点！

近代日本洋画に大きな足跡を残した南薫造（1883-1950）。没後70年を迎え現在日本の各地で彼の画業を称えしのお展覧会が企画されています。南薫造は、東京美術学校卒業後、イギリス・フランスに留学し、若くして画壇での地位を築きました。風景画を得意な題材として瀬戸内海の農村や海景を描き、数多くの作品を残しています。また人物画でも味わい深い人間表現を演出しています。広島美術館では彼の初期から晩年に至る多くの名品を所蔵しています。広島美術館ならではの南薫造の魅力の1点、数多くの作品の中から見つけて見てはいかがでしょうか？



図11 日の出



図12 小童



図13 蒲刈島風景



図14 冬枯山

広島県立美術館にはまだまだ紹介出来ない例えば圓鋸勝三、平櫛田中、ダリなどの木彫・彫刻・洋画の所蔵品がたくさんあります。また機会ありますときにしっかり紹介できたらとも思っています。広島県立美術館の発端は小学校の美術館建設に向けた「1円募金運動」からとも言われています。広島県民の美を愛する思いから建設された美術館。広島の子の原点にも触れることが出来るのではないのでしょうか？私も小さい頃、美に触れることが出来た唯一の場所、オススメの場所です<sup>2)</sup>。

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22

<https://www.hpam.jp/museum/>

### 3. 泉美術館 2021.5.31

泉美術館は、広島市内の西海岸、商工センター内のビル内にある私設の小さな美術館です。美術館は株式会社イズミの創業者山西義政氏によって設立され、間もなく25周年の節目を迎えようとしています。義政、千榮子夫婦の独自の審美眼で収集された近代の洋画や日本画、彫刻、中国染付磁器などの作品は「人にやさしい、人を思いやる芸術空間」を作り出し、子供たちをはじめ多くの人々の心の糧となり、芸術を愛する人たちとの出会い、交換の場となっているのです。



図15 外観風景

#### 鑑賞のポイント その1

彫刻家佐藤忠良との出会いの物語！

泉美術館のコレクションの中で最も目を惹くのが彫刻家佐藤忠良（1912-2011）の作品です。美術館の入り口を飾る佐藤氏揮毫の銘板、絵本「大きなかぶ」の挿絵のレリーフ、鉛筆デッサンそして「帽子・冬」など彼の代表作品でもある女性をモチーフとした具象彫刻。山西義政氏との友好的な交流がまるで物語を見るかのように作品を通して伝わってくるのです。佐藤忠良作品の最初のコレクションは「フードの竜（1980作）」その初々しい子供の表情からは作品との出会いの溢れんばかりの喜びと未来に対する希望を感じるのです。





図16 エントランス



図17 作品展示風景

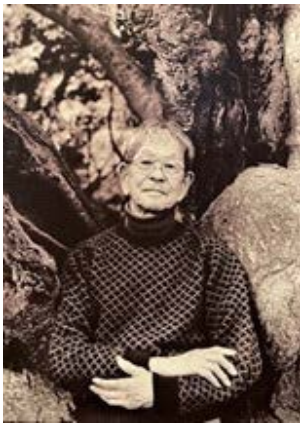


図18 佐藤忠良ポートレート  
(部分) 撮影斎藤康一氏



図19 「フードの竜」(部分) 右側

泉美術館での佐藤忠良企画展はこれまで2000・2002・2004・2006・2011・2017年と6回企画されていて、所蔵作家としては最も多くの回数を記録しています。

### 鑑賞のポイント その2

圧巻の和空間！村上華岳！掛け軸3作！

美術館には近代日本画の掛け軸や屏風、中国工芸作品の名品が陳列されている一室があります。建築家田中清氏の優れた和洋折衷の設計が見事に作品を引き立てているのです。中でも近代日本画家を代表する京都画壇の村上華岳（1888-1939）は晩年多くの菩薩を描いていますが、その姿は女性の妖艶な官能美と悟りの精神性が見事にバランス良く表現されていて、見る人を不思議な神々しい世界に導いてくれます。3点の掛け軸は、それを象徴する展示となっていて、金色を基調とした単調な色彩が一層村上華岳の魅力を深め広げています。是非圧巻の和空間、ご覧ください！



図20 村上華岳「菩薩之図」1928年頃

### 鑑賞のポイント その3

雪見障子から見える絶景の借景！

エレベーターから降り、美術館に入って受付を済ませ、作品展示の部屋に進もうとすると目の前に入ってくるのは雪見障子から見える絶景の借景。そこは日本庭園を備えたカフェの空間。美術館がビルの一室であることを忘れさせてくれる「和み」の風景を見せてくれています。鑑賞後の余韻にゆっくり浸ることが出来るだけでなく、鑑賞前の待ち合わせの場所にも利用できる素敵な時間を過ごせる空間でもあるのです。



図21 雪見障子から見える借景



図22 庭園風景

泉美術館にはまだまだ紹介出来ない、例えば梅原龍三郎、安井曾太郎、藤田嗣治などの洋画、横山大観、前田青邨、東山魁夷などの日本画、中国の壺・皿などの古美術等コレクションがまだまだたくさんあります。また機会ありますときにしっかり紹介できたらと思います。

山西義政、千榮子夫婦の美に人の思いを託す心から建設された美術館。その流れは現在も山西道子美術館理事長によって大切に受け継がれ、忘れられつつある日本の美の素晴らしさだけでなく現代美術の未来に向けての新しい希望にも触れることができます。恐れ多いことですが、いつか私、三柵の作品も展示させて頂けたらと夢を描いてしまうほどの素敵な魅力ある小さな美術館。オススメの場所です<sup>3)</sup>。

本原稿は泉美術館主任学芸員 鶴田 茜さんによるギャラリートークを基に作成

公益財団法人 泉美術館

〒733-0833 広島県広島市西区商工センター2丁目3-1 エクセル5階

<https://izumi-museum.jp/>

## 引用文献・図版

- 1) JA 共済広島「かわら版」ひろしまウィンドウ 『美術のミカタ～尾道市立美術館』  
<https://jakyosai-hiroshima.jp/hiroshimawindow/art/1517/>
- 2) JA 共済広島「かわら版」ひろしまウィンドウ 『美術のミカタ～広島県立美術館』  
<https://jakyosai-hiroshima.jp/hiroshimawindow/art/1667/>
- 3) JA 共済広島「かわら版」ひろしまウィンドウ 『美術のミカタ～泉美術館』  
<https://jakyosai-hiroshima.jp/hiroshimawindow/art/1813/>